

前年度の改善方策についての結果

令和6年度の改善方策を受けて、令和7年度の改善事項

- ① 友達と学び合ったり協力し合ったりする場面を意図的に設定し、関わりを大切にしながら学校生活を楽しむ心情を育てる。
- ② 「せたがや探究的な学び」の実現に向けて、ICTを有効活用しながら探究プロセスを授業に積極的に取り入れていく。
- ③ 「繋がる給田」のスローガンのもと、全学年で、地域と連携しながら学習を進める機会を設け、児童が地域を理解し、地域に愛着をもつことができるような教育活動を行う。

具体的な方策

- ① 運動会や展覧会などの大きな行事の際には、一人一人に目標を考えさせ、丁寧にふり返りの時間を設けることで、個々の達成感や自己満足感をあじわわせていく。縦割り班で行う「わかたけ活動」を通して、縦割り班遊びだけでなく、展覧会の共同作品にも取り組ませていくことで、児童同士の関わりを多様なものにしていく。
- ② 全クラスでタブレット端末を活用した授業を取り入れていく。ICTを有効活用しながら、探究的な学びを進める時間を意図的に増やしていく。また、全学年で情報モラル教育を推進し、タブレット端末の使い方のルール並びに、インターネットモラルを守る心情を育てる。
- ③ 学校支援コーディネーターと連携しながら、地域の人材を適宜紹介していただく。地域の人材と連携しながら学習を進めていくことで、キャリア教育を推進し、なりたい自分像を描くきっかけをつくる。全学年で、地域に出かけて体験学習をする機会を設定する。

改善の結果

- ① 学校評価アンケートにおいて、学校行事に対する満足度や肯定的な意見が大変多く、児童も保護者も行事の重要性を感じている。行事を通して、児童の心が大きく成長している。また、年間を通して行われる縦割り班の「わかたけ活動」では、異学年で遊んだり、展覧会に向けての作品作りに取り組んだりすることができた。学年を超えた友達との関わりを通して、学校生活を主体的に楽しもうとする姿が見られた。
- ② 1年生から6年生まで、各学年の発達段階に応じて、ICTを有効活用しながら授業を進めることができた。授業の中で、タブレット端末を活用した方が効率的に学べることと、そうでないことを教師が取捨選択しながら進めることができた。児童はタブレット端末の操作に慣れ、使いこなしている反面、ルールやマナーを守ることができない姿も見られた。情報モラル教育をより一層充実させていく必要がある。
- ③ 今年度も、学校支援コーディネーターの協力を仰ぎながら、どの学年も地域の方々をゲストティーチャーに招いたり、実際に体験活動をさせていただいたり、学びを深めることができた。今後も、繋がる給田のスローガンのもと、様々な体験学習を充実させていく。